

## ◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：SDGs さいたま応援団

25A-36

代表者：代表 森 啓祐

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

深刻化するプラスチックの海洋汚染問題が待ったなしの状況にあることを、市民一人ひとりが認識し、暮らし方の変革を行うことが重要である。そのための啓発活動として、海なし県の埼玉からも大量のプラごみが川を通じて海に流出している現状を、身近なプラごみ散乱写真や図解、海洋生物を苦しめている写真パネル等を展示し見てもらうことで、「自分ごと」として理解してもらうことが、海洋汚染問題への取組みの第一歩となり、次世代のために役立つと考えた。

また、海洋汚染に加え、まだあまり知られていないマイクロプラスチックの大気汚染についても、専門の研究者から学ぶ機会（セミナー）を設けることが、プラスチック汚染の深刻性を一人でも多くの市民に理解し行動してもらうきっかけづくりに資すると考えた。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 助成対象事業 於・武蔵野銀行本店 M' s SQUARE

#### ① 写真展「プラスチックの海洋汚染」

〈開催日〉11/10（木）～17（木）

〈観覧者数〉123名（確認者数）+α（?）

〈内容〉海洋汚染レンタル写真パネル10枚+当会独自作成パネル8枚ほか展示+DVDリポート映写

#### ② セミナー「知ってますか？ 空中を漂うマイクロプラスチックのことを・・・」

〈開催日〉11/12（土）午後2:00～3:45（含・挨拶等）

〈受講者数〉59名（一般50名+会員9名）

〈内容〉早稲田大学理工学部・大河内博教授による1時間の講義+30分の質疑応答



(2) その他の事業

#### ① 見沼区役所写真展 ・三橋公民館写真展

#### ② SDGs 国際協力フェア in Saitama 出展（大宮門街・レイボックホール） 等

### 3. 活動の成果

① 写真展については、会場の立地条件や認知度不足もあり期待の観覧者数に達しなかったものの、来場者からは、「意識変革につながった」等の高評価が多数得られた。また、今回助成を受けて作成したパネルやDVDは、今後の活動の有効活用につながる。

② セミナーについては、募集人数通りの参加があり、質疑応答も活発で予定時間をオーバーするほどの熱のこもった反応があり、当初の目的を十分に果たせた。

### 4. 今後に残された課題

① より有効な場所での写真展の横展開を行いたいが、会場の選定が難しい。

② 公民館等を通してのチラシによる広報の難しさを認識。参加者募集の方法が課題。

③ 若年層への啓発活動の強化が最重要課題だが、有効な方法が難しい。